

はじめに

「地域資源」とは、産地の技術、農林水産物、観光資源といった地域の特徴ある産業資源のことを指す。

現代ビジネスによる「都道府県の観光意欲度ランキング」によると、「地域資源」や観光資源がうまく活かされている地域は第1位北海道、第2位は沖縄、第3位が京都という結果である。対して最下位の第47位が茨城県、第46位が埼玉県、第45位が群馬県、そして第44位が私たちの住む栃木県である。考察の中で、北関東圏の観光意欲の低さについて懸念している。茨城県には偕楽園や大洗海岸、群馬県には草津温泉や伊香保温泉、栃木県には鬼怒川温泉や那須や日光等の有効活用できる「地域資源」があるにも関わらず、新しく魅力的な取り組みがなされていない点が人気の低迷であると指摘した。では、「地域資源」を活かすということは具体的にどういう事ことなのかを考えていきたい。

総務省の「わがまち。わがむらの産業おこしⁱⁱ」に「地域資源」を活かすポイントが述べられているので、以下に記載する。

- (1)地域の食生活・生活文化を活かした商品化
- (2)素材の差別化
- (3)自然資源を活用した事業
- (4)未利用資源、施設の活用
- (5)生活基盤の強化拡充
- (6)テーマを持った人材育成

上述のような多様な意味合いを持つ「地域資源」について考える上で、私達は「つながり」という言葉を重視しながら話し合いを進めた。

「人」と「人」、地域と企業、自然と人の暮らし、現在と未来、「空間」と「人」の繋がりに着目し、考察を行った。また、この場合の「空間」とは、特定の目的を持った人が集まる場所を指す。

「地域資源を考えることで、地域の将来の在り方を考え、また地域資源の新しい役割を考える」という目的の元、それぞれの考えをまとめていきたい。

ⁱ20～60代の消費者を男女別各年代別、地域別にほぼ同数ずつ回収し、日本の縮図になるように年齢や地域人口の分布に合わせて再集計したアンケート。(調査時期：2009年7月3日～7月9日 調査対象：全国1000の市町村 有効回収数：32,124人)

ⁱⁱ「わがまち。わがむらの産業おこし」(2014年1月17日最終閲覧)

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/pdf/chosa_4.pdf